

西洋道中膝栗毛

十二編
下



門 184
冊 1260
卷 24

西洋道中膝栗毛十二編下

假名垣魯文原作
七杉子總生寛續編



よきあふる世の中ハ何う考あるあまう門まのみめいの測りけふ
漸と遷り變るが苗今の文の國化の基本み
新編費明目的の正ハ王侯將相より下農商の卑
人衆居居の目程収灌打坊主ふいなる中である
新らしく面白く生ハあきつと心路熱け窮理

西洋道中膝栗毛十二編下

二

其の如く細く長く電線撓き居る如
 織の揚貝洲の橋の石よりも堅く拵絲の織物と
 ひと見かけをちよつとをちよつとあるけをちよつとある
 程深淵の所なる多に窮理穿鑿その年を推
 究る世夢の大禁物少頃一と轍道の海城填め
 る蒸気車と一時のちよつと十里のちよつとの夜打のちよ
 をちよつと成つてちよつとをちよつと馬麻とちよつと
 と又の鼻のちよつとをちよつと紙のちよつとも人の業とちよつと

世神妙不測と感服せされば世界の万国を巡り
 人を九倍の月小己が國と之數多く又幾七なる
 利がつるく少海を八道のちよつとをちよつと
 出へ八十餘所の長橋の伊勢へ七度多野へ七度
 朝は赤い布の橋巡り鉄西八年挑ち布鬼宴が
 ちよつと後實を佐渡の四十又里波のちよつと八丈
 大橋と可厭かちよつと西洋のちよつと平海のちよつと海
 紅海裏海印度海とちよつと同社のちよつと板子一枚地獄

の沙汰も金が入り一番客が七百ドル二番の客
 が五百ドル三番客巴勃ニウヨルク下等客二百ドル
 の船屋の度さぐは客半減客の棚紙に脱しよと
 人相船屋含事よ一箇テーブル客もの十人二十
 名合の橋よよそて金入版の客よ事よ欠ね
 と田パン肉類の汚穢く船よ揺よと歐吐紙汚死
 航海よ是は後悔の種よとぬぐ惘然と船屋
 一箇陋ぬ校権りの口に突入り海客希甚多八通海客

の三人の毎度退屈のあまり、お替いの抽捲りしてある
 中よ毒コウ海客さん大分滑るよ
 海客「あぜ出」校よ突よんぶいらつらよまらアな「あや
 マアどうしてたんご只今喋りてわるとおふと奥より提灯を
 出よよいらつら涎を垂るよと將死よととるよやうふん
 楽な男よア移りく海客「そらうそんあふ勝この時夜
 半公をさがあんあ案ら紙
 何箇紙初めくいのけ終るよのとあつとわら内ふぬと仕

籍よあつてマツとあり一様中うとまると只世人窮乏を
 不で表多公が大人げ籍人膏舌紙おまよ後お撲と
 あつりまの推紙しつろサ又お表おとふとお船が白
 眼とておろろアある一二冊よあるのおちつとも籍や
 一籍人どうも今日何となくおつと一さやうでも籍人
 表多一り加減を紙を紙するぜ籍籍人のいらいらおあ
 も同く一さ何で籍人冊が二冊よあるののうまも十
 冊あざらう一籍人籍紙をわくそのおの冊籍計はわア

籍人 表多一 表多の冊籍計がまよあるのんろのり
 演心まよ二分出く籍の冊籍計紙賃とんで表多
 表多も七籍人が扱ふま籍人籍人、表多一この紙
 籍人おの籍人ちりしてまよもまよのちう二冊の冊籍
 づ遠つと間がころの半日位籍つと籍のトヤアお人
 籍人 一さ一ささんお表多はがまよのうろつとわと
 一さの籍人又安いうろつと一さの表多一さのりまづ
 籍人 冊の利このの奇貨との入わがあらアのり

てめん 柳系の掛え毎で賞さぬ織とえさやうふと
ふまんよあ 名め撰えん伸の細ひ靴の成な負ひ込んどのも
知しらぬ人でゆた丈が丁度のの総ま毛を南せ風よ
どのと自標トしらぬ 女め國の指さのう人を來くと風よい
ふれとここが 靴がなまままくならぬふあゆさく
皆いぬさぐにおて種をうり女の先を引きうつておろく
して居かとしやアおろうまままアの附しア研をかてから
うひづらうま並ね附らぬら進またんで靴をおろす
てめん 柳系の掛え毎で賞さぬ織とえさやうふと
ふまんよあ 名め撰えん伸の細ひ靴の成な負ひ込んどのも
知しらぬ人でゆた丈が丁度のの総ま毛を南せ風よ
どのと自標トしらぬ 女め國の指さのう人を來くと風よい
ふれとここが 靴がなまままくならぬふあゆさく
皆いぬさぐにおて種をうり女の先を引きうつておろく
して居かとしやアおろうまままアの附しア研をかてから
うひづらうま並ね附らぬら進またんで靴をおろす

ぬちわア外が園ぐらういらういらうさんどぐき箱ぶん
ギアよく指さても指さぬきりのこよ附屋やのその
別べ限げんよういらういらうのこよ附屋やのその
おろうまア海より渡板をさんのと合あてもさせ人と
ゆた丈が丁度のの総ま毛を南せ風よ
どのと自標トしらぬ 女め國の指さのう人を來くと風よい
ふれとここが 靴がなまままくならぬふあゆさく
皆いぬさぐにおて種をうり女の先を引きうつておろく
して居かとしやアおろうまままアの附しア研をかてから
うひづらうま並ね附らぬら進またんで靴をおろす

西洋雜毛十下

四



通次郎



弥次郎



世義

供七



喜多八

一月小一冊くらゐ一年小

三百六十冊のたがひぞ

一そんならいづも一冊浮んぞ

たな屋のあらぬく風よのせうき

ころきくくとあやしのり合ひ

通次郎もまさな紙なりと

滅金うとをえし銀をま給の

孔子も冊本よあぬあきり

おおかしうはるきんの狂歌を取事来歴が交
つてあるところ一すまぢやア舞へぬふのうらあ
うてス今日いつもの様よきくどや紙換へ
替ひ紙償ふそふとやア紙入り子通一そのやアよろふ
が長は接でいらくも藤屋もそしつらうらる
替ひふいあややアあねせあんとういふ
日常の子更の紙入のといふまへ借七も同く
そふふ通屋と足くとぶらうく来き紙出

佐「西著の遠海は地を毛あり生けり子 この生えの
 の回金風ありし久しく教人と一あよわろ 佐七が毛を
 史よりと南洲のまじりぬまうーあまー 海峽 ヤ兼の西へ来て異
 とのうく船の中で語らうまうーをうーして返るる見
 だうう願のたづむるやどは強明くお互よ名ひたう
 しく長んがなまふ深き山と不測法と仕出
 まーさうあの海へ残まらぬ船へおアやア大西
 洋海とやうな一日も英吉利の地へあうまうと
 サアスアン。フロンへ列島たりや又横へあむらうのりもあ

だらううううまうでのあひアおまーく帰國しく
 うう月紀の中後おらげてもちよのと知んのりり
 向で答さうといふんごううあんぞ名ひ珠を流る
 絲入りのう龜の甲より年の功ぞかんげんごん
 おくま一せんあうごうだらうう皆着るるまを男流ど
 うう敷る能備といふの由おめー一様おの毎度採
 るさうく沢山あうーち山と影らうの文めで場唄
 の法ううく残しく考人のまのめの罪金と極

やうふ長人の短げへのちのめ細への黒への白い
 のとりつゝ目みやア糸つらうとそよア糸入さうで
 ス面々ふ肉院をさひつらる葉咽成るこのとそ
 と園ふーとわーちわア一そまがよろろう十
おの 小肉院ゆゑ紙ふたひさふよろて籠と居て引をたれバ一有ッあは
おの おた一着に舞ハ依七めて二巻ハ紙糸糸まゝハ舞次帯穿んハ舞次帯
 サアとまをさるツと依親方おめ人影ハあんどう園ハ
 ころんあせ人あ務負 依一まぜツけへーちわアつけね
 ドくおいらのハ我ののとかのハバからーとあくある

コリヤア活夜と本洞子と出うけたんとあんまり
 品の悪く移る方がりせそりーと園化をえるで
 ちよのと養者が今喫ハあり難かとちわーとそ
 咽へる短人であくツちわア折角地つと甲斐又がね
 へせ 依一ラットよりしくそとらふ替のハあ 細密答
おの があハさう替とままア、あいとたあやアお救あ
おの で砥踏の踏をた運中をくらうんで川柳の一ツ
おの や二ツああドつけさるゆあア一短毛百人一首の



儼然と坐すの姿は正しくあるうらまはせむと
 をそのあひ顔へ抱きこみし顔にせ 浴衣 付七どん
 の大平衆の始めと云ふが跡分あげのいんご
 ノウきりーと云いぬの出来を人のあぐりーと云ふ人
 付 付 のり のり 出来さ 出来さ 姿みせ人 ト 膝中より腕をのり葉 浴衣
 そらアアと云ふらんあせ人顔あうと云ふある
ト お切紙のまの
このまの おま
おま おま おま
 一月のむらけとまのあせの中へる

車や蒸氣車と云ふものふわりをん
 走る車のあるにけり姿たり姿せり
 お雲の先のたの望でも何のあんとる
 みのあひ
と云くとしんがふふ 色トあれどき
そらとそらかんち
さんど影もあんだう閑きあ人サ早ふく
あふりろ
あふりろ
を仕換る
ト おま
ハ あふりろ
色
ヤ
あ

西洋書三十二下

三十二

と由と當^{あて}りけむせりヤア井^{うま}く出^で来るぞうう
後^{あと}通^とせん先^ま紙^{かみ}切^きつちやアのけ移^{うつ}人^{ひと}せそうい
とると移^{うつ}人^{ひと}よく出^で来る^き知^しが當^{あて}りぬサリ^りふま
が^つあると移^{うつ}人^{ひと}や^つふま^る—^{さう}あるん^んんも
むまら移^{うつ}人^{ひと}影^{かげ}が^りか^うつとよく出^で来る^る位^{くらい}ある
正^ま宗^{むね}の刀^{かたな}張^はり^をせりやア^{ぞん}あるん^んちた^たぬ^ぬ千^{せん}
人^{ひと}切^きが^で来る^る筈^{はず}用^{よう}だが^{さう}ハ^いつ移^{うつ}人^{ひと}莫^な那^な
の^つ劔^{けん}も^り持^もち^てぐ^ら鬼^{おに}乘^ま毛^け馬^まも^り乗^りを^てぐ^らア
ア

サそんあふ利^り属^{ぞく}張^はあるん^んア移^{うつ}人^{ひと}の^らお
影^{かげ}張^は張^はつと^とま^まと^とも^もま^まや^やあ^あぬ
—^そう^うあ^あう^うそ^そう^うあ^あう^う早^{はや}く^く聞^きく^くん^んぬ^ぬ
ナ^あら^らぬ^ぬあ^あう^うか^かう^う—^と洋^{やう}行^{ぎやう}する^るむ^む志^し見^みる^る
ぞう^ぞ子^こ—^後あ^あん^んた^たう^うと^とま^まの^のあ^あう^う茶^{ちや}飲^いと^とま^まや
ア^あら^らち^ちの^のま^まの^の相^あ箱^{はこ}入^いの^の紙^{かみ}張^は出^でま^ませ^せの^のう^う—^後
あ^あん^んぞ^ぞと^との^のび^びつ^つち^ちや^やア^アの^のけ^け移^{うつ}人^{ひと}よ^よ教^{おし}ぐ^ぐ—^後出^で来^き
く^く—^後あ^あま^ま

西平和也

船と世界にのりあるたあめ里の海
が水南あつたあつたあつたあつた
夜ゆぬ國と氷海のマダ先づつて
あやあつたあ

「どうぞ寸志をいふ人ね是ううのきをけん
ぶつ芽と毒が通さんど影張をうげ秘人ナ何ぞ
と人ローグ國まで見せよのいのこりヤアまてたど
二よりの極端の気張ど一毒のううるせ

るま世人の影張をやアやのなり自分でも
りよよア秘人う全体二よりのきものる極端
あひのよく秘人のぞニ味線よあひせりやアう
まの秘人が只のん白でのりあつたあつたあつた
せそと紙よく水知であくつちやアあまうせ
人ののんごとあふとよくつて人かー自分のあふ
まのやア紙がえんさ知がなよするを只野ふあけ
よ違花茶古今集よ款の露あふぬうんと取

まへけぬうー見えん人き枝あがらふよ 後 無せん
りか後ふーとく ト世あつからる小首
かこむけ無向する

あり

ニリコウが玉さの之か

引が咽さるを コ りさのひびし種 カミ

風 セ りぬかり ク らあま ク 困化の ク 見え ク 写

モ シ 元 シ 帯 シ へ シ あり シ ぞ シ 入 シ 新 シ 波 シ 目 シ 結 シ ニ ヨン ガ イ シ 引 ク

「マア セ ち セ る セ と セ なる セ あ セ の セ や セ ー セ 否 セ 點 セ 刺 セ く

「後 奇妙 カキ きん カキ きの カキ 上 カキ 最 カキ 上 カキ 難 カキ 切 カキ 古 カキ 今 カキ の カキ 秀 カキ 色 カキ

サア ヨ 田 ヨ 高 ヨ ぢ ヨ 森 ヨ ぬ ヨ き ヨ せん ヨ ま ヨ の ヨ かり ヨ 志 ヨ 孫 ヨ 人 ヨ を ヨ 皆 ヨ け ヨ を ヨ ら

扱 テ ッ テ ぞ テ 願 テ き テ よ テ ー テ 子 テ ナ テ ニ テ 扱 テ 一 テ ぶ テ コ テ リ テ ヤ テ ア テ 扱 テ ヲ

と シ あり シ ー シ ろ シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー

あ シ ん シ 海 シ の シ 古 シ 風 シ よ シ や シ の シ ち シ ち シ や シ ヤ シ 美 シ 年 シ ぞ シ ぜ シ ー シ 心 シ

ら シ ア シ あ シ ん シ あ シ ぐ シ ぐ シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー

あ シ の シ 孫 シ 人 シ マ シ ア シ ち シ ぶ シ い シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー

ト シ や シ A シ 條 シ 伯 シ ふ シ ち シ ぢ シ あ シ 入 シ せ シ 物 シ ぞ シ も シ ら シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー

目 シ 迄 シ の シ 子 シ 際 シ 紙 シ 形 シ ハ シ ー シ 孫 シ 人 シ あ シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー シ ー



夕
 夕
 夕
 の
 夕
 夕
 の
 夕
 夕

弥次



通次郎

修
 修
 修
 の
 修
 修



供七



喜多八

蒸氣を以て漢の如く外に

ふ人もあり

一コウ森多さん風がうらゐぜありやア漢の收名
 恒先生の肉ふ家金をわろ 岳亭定墨さんの
 他ぶゼサア 胃金くく 符金ぶア 秘人運動を
 ぐる 面白く 立入り 飯を秘人ふ
 一休方ダ 秘人何うヤ川つひ 魚くダ 秘人
 一休方ダ 秘人何うヤ川つひ 魚くダ 秘人
 一休方ダ 秘人何うヤ川つひ 魚くダ 秘人
 一休方ダ 秘人何うヤ川つひ 魚くダ 秘人

わかんふ 秘人さんみだやうくく かん 秘人を

ラット 香込山の 夢印あまより 麓をとり

と 秘人よ 入道きん

一休の きんく 一休の たち 秘人さん

何う 一休の たち 方 秘人うの

一休の たち の たち め 秘人 一休の たち

士の一合 香でも 生研の 一合 中わダ 秘人の たち 一天

一休の たち 秘人 一休の たち 秘人 一休の たち

世一代一十百千 戦中あんど 戦あす道つく一
トせんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 戦ごんふ高地湯づくあり 一激疑意よ一人高ふ
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 一本も多めのり土番めんごよ 一併一体一切元生
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 一運元生一なるきき 縁一く関一決きぬりて
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 一月納給一文をんと 一百換する一縁縁で姉が
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 おんく一應僕判一妻説よある一為かありて
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 一おくぬく一巻後八一向むちちやらちや
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん

一おくぬく一巻後八一向むちちやらちや
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 一おくぬく一巻後八一向むちちやらちや
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 一おくぬく一巻後八一向むちちやらちや
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 一おくぬく一巻後八一向むちちやらちや
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 一おくぬく一巻後八一向むちちやらちや
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 一おくぬく一巻後八一向むちちやらちや
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん
 一おくぬく一巻後八一向むちちやらちや
せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん せんきん

西洋書目三十二下

十八

たぐをまゝ
 あうまのど
 公だの
 うり
 ら仕方
 とうきゅうち
 東京中
 ぬのさ
 出来ア
 遠ツ

あう
 せじ
 世居ア
 さん
 のこと
 そろ
 奥根
 佐七

たぐをまゝ
 あうまのど
 公だの
 うり
 ら仕方
 とうきゅうち
 東京中
 ぬのさ
 出来ア
 遠ツ

あう
 せじ
 世居ア
 さん
 のこと
 そろ
 奥根
 佐七

新吟トク

飛とり

一いっ

阿ふゲン子あふげんこ

ハ皆みなく合あふ

此こゝに色いろ次第しだいもとりあへむ

つらぬも早くゆききるトヤウききる

何なには是こゝを毛け無な用ようありけり

心こゝろの合あひを初はじめする合あひの笑わらひ

人ひと狂くるきりり

西洋道中膝栗毛

栗毛士二編下了

東海道中膝栗毛

中本 木曾 膝栗毛 中本 全十八冊 道中 膝栗毛 全廿五冊

萬國航海西洋膝栗毛

中本 奥州 膝栗毛 中本 全三十冊 道中 膝栗毛 全十五冊

亞墨西洋膝栗毛

小毛 拾遺 滑稽言五十三驛 切付 全十冊

東京書林

本石町二丁目 椀屋伊兵衛 椀屋伊三郎 椀屋喜兵衛

